

## 学校が抱える授業力向上を図る取組への課題

### 1 校内授業研究会に参加してはみても・・・

年度初めのある日、学校課題担当者から次のような説明がありました。



今年度の学校課題は、生徒の学ぶ意欲を高める授業の展開を図るため、「分かる授業、達成感のある授業の創造」と設定しました。課題解決のための重点的な取組として、各学年で必ず一度は授業を公開し、授業研究会をもつようにしたいと思います。各学年で話し合っ、実施月と授業者をお知らせください。

その後の学年部会での出来事です。



10月、A教諭は先輩教員に見られても恥ずかしくない授業をしたいという思いで、何日もかけて一人で指導案を検討し、「見せる授業」追求のために教材研究に励みました。研究授業当日、A教諭は、検討した指導案どおり忠実に進めようと心がけました。



このような研究授業になっていませんか？

その後の授業研究会では、先輩教師から、「板書計画がきちんとされていて、よかったと思いますよ。」というような感想や、「あそこでは、すべきではなかったのではないか」、「指導案の展開を意識しすぎているのではないか。」等の授業の改善点に関する助言がありました。

一方、1時間の授業研究会の中で、全く発言しない教師も少なくありませんでした。授業研究会は管理職の講評で幕を閉じました。

このような授業研究会になっていませんか？

授業研究会後、自分の授業を公開したA教諭には、授業を公開して勉強になったという思いよりも、「終わってほっとした。」という思いが強く残りました。そして、来年の研究授業は自分に当たらないことを願いました。

授業提供者が「提供してよかった」、参観した教員が「参加してよかった」と思える校内研修(授業研究会)は、 - 2を参照してみましょう。

## 2 よりよい授業を目指してはいるけれども・・・

「農家の仕事はどうやって調べればいいのか？」B教諭が子どもたちに投げかけた質問に、C君が勢いよく手を挙げて発言しました。「図書室に行って調べれば良いと思います。」B教諭はその答えに対して「ほかにありませんか。」と、間髪を入れずに他の答えを要求する発問をしました。B教諭が深く考えずに発したこの一言で、C君は下を向き、活気のある教室の雰囲気が沈滞してしまいました。B教諭は「どうしてだろう。」と思いつつも、授業を進めていくしかありませんでした。

このような経験はありませんか？

授業後、B教諭は、C君がどうして急に下を向いて黙ってしまったのだろうか、と考えても分かりませんでした。そこで、日ごろから気になっていた授業のことについて、同僚に相談してみました。

毎日、忙しさにかまけて、教材研究も十分じゃないまま授業をしちゃっています。子どもたちは、そんな私の授業をどう思っているのか心配なんです。



私も毎日の授業を計画的に進めることで精一杯で、授業を振り返る余裕がないよ。私の授業の方こそ、子どもたちはどう思っているのかな？

このように、子どもの行動を通じた授業の振り返りができていますか？

どのように指導し、どのように子どもと関われば、楽しい、分かる授業が展開できるのか、具体策が思いつかないまま日々授業に臨むしかありませんでした。

数日後、二人から相談を受けた学習指導主任から、次のような提案がありました。

児童が授業をどう受け止め、どれだけ理解できたか、児童から授業評価をしてもらい、その評価結果を生かして授業の改善を図りませんか？



しかし、今のままでは子どもたちからよい評価が得られないのではないかという不安があり、授業評価を実施できないでいました。

B教諭は意を決して、授業後に、授業についての感想をノートに書くよう児童に言ってみました。ノートには、予想以上にたくさんの感想や質問、要望などが書かれました。児童一人一人の顔を思い浮かべながら読むうちに、C君がなぜ授業中に下を向いていたのか、質問しても他の児童がなぜ答えなかったのか、どこが分かりにくかったのか、児童が授業に何を望んでいるのかなどが分かってきました。

そうか、それならば明日の授業では、このようにやってみよう。



「よりよい授業づくり」を目指した、授業評価の実践は、- 1を参考にしてみましょう